深い学びのために

学習のポイントの解答例

1　**「筒井筒」「くらべこし」の歌は、それぞれ相手にどのようなことを伝えているか、まとめてみよう。**

【答】「筒井筒」…自分も大人になったので、あなたと結婚したい。
「くらべこし」…私もあなたと結婚したい。

▼ポイント▲　「筒井筒」の歌は、男の側から、大人として求愛する気持ちの表現であり、「くらべこし」の歌は、それを受けて、女の側も男の求愛を積極的に受け入れる気持ちのあることを伝えようとしている。男は背丈の伸びたことで成長を表現して求愛する。女は髪の長さを示して結婚適齢期を迎えたことを言い、男への愛情を率直に歌う。贈答の形の上でも内容的にも見事に対応しているばかりでなく、男女の成長の表現に極めて象徴的なものがある。

2　**大和の女と高安の女を、詠んだ歌、振る舞いや性格について、比較してみよう。**

【答】
大和の女
・「風吹けば」の歌　山越えをする夫をひたすらに案じる。修辞を用いているところから教養深さがうかがえる。
・振る舞い　嫉妬心を出さない、化粧して男を思う歌を歌うなど、たしなみ深さを擁している。
・性格　奥ゆかしく、男に対するひたむきな思いを持つ純真な性格。

高安の女
・「君があたり」「君来むと」の歌　二首とも、男を待つ気持ち、男への恋心を詠んでいる。
・振る舞い　最初は奥ゆかしかったが、次第にその奥ゆかしさを無くしていき、男に幻滅される。
・性格　品位に欠ける点はあるが、男へのひたむきな思いを持つ点は大和の女と変わらない。大和の女が男の身を案じる歌を詠んでいるのに対し、男を恋う自分の気持ちを中心に歌を詠んでいるところから、やや自己中心的な性格も読み取れる。

▼ポイント▲　男を思う気持ちではどちらもひたむきである。大和の女の歌は、夫の身をひたすらに案じている。序詞や掛詞などの修辞も凝らされていて、この女の教養の顕れと見ることもできる。一方、高安の女の歌は、自分の気持ちを述べることに終始しているものの、修辞に頼らない自然な感情の発露とも見ることができ、歌においては優劣つけがたい。

振る舞いの点では、大和の女の、嫉妬心を表に出さず、化粧をして男を案じる歌を詠むというたしなみ深さに比べ、高安の女は、最初は奥ゆかしくしていたものの、次第にうち解けてはしたなくなり、たしなみを忘れた姿に男の愛を失ってしまう。高安の女は、男になぜ疎まれるのかと言った人情の機微を解す心に欠けていた

のである。

言葉と表現の解答例

1 **次の傍線部の助詞の種類と用法を、それぞれ確認してみよう。**

(1) **聞かでなむありける。（六四・7）**

(2) **君があたり見つつををらむ（六五・9）**

【答】 (1) 接続助詞（打消接続）　(2) 間投助詞（強意）

▼ポイント▲ (1)未然形接続の助詞で、「…ないで」と訳す。

(2)和歌の場合、調子を整えるという働きもある。特に訳さない。

言語活動の解答例

1 **『伊勢物語』と『大和物語』はともに十世紀頃に成立した歌物語である。「筒井筒」（六四～六五ページ）と「沖つ白浪」（六七～六八ページ）は、「風吹けば」の歌を、男が別の女性のところに通うときに、もとの女が詠んだ歌とする物語の骨格は共通しているが、細部にさまざまな違いがある。二つの作品を読み比べてみよう。**

(1) **「筒井筒」と「沖つ白浪」で描写が違う部分を指摘してみよう。**

(2) **「筒井筒」と「沖つ白浪」の作風の違いを指摘してみよう。**

（意図）『伊勢物語』「筒井筒」と『大和物語』「沖つ白浪」を読み比べ、描写の違いを押さえた上で、二つの作品の作風の違いについて理解する。

(1)（手順）

1 「沖つ白浪」の本文を音読し、内容について確認する。

2 グループを作り、「筒井筒」と「沖つ白浪」で描写が違う部分をあげる。

・グループワークをする際、まず違う点をあげさせて、全体で整理する際に、【両作品にあるが、設定が異なっている描写】【「筒井筒」にはあって、「沖つ白浪」にはない描写】【「沖つ白浪」にあって、「筒井筒」にはない描写】に分けると、整理しやすい。また、これらの項目を最初から与えてもよいし、始終分けずに出してもらうやり方でもよい。教室や授業の状況に併せて行いたい。課題としてあらかじめ出しておくのもよい。

【答】

【両作品にあるが、設定が異なっている描写】

◎もとの妻が歌を詠む前に、「筒井筒」では「いとやう化粧じて」になっているが、「沖つ白浪」では「頭かいけづりなどして」となっている。

◎「筒井筒」では、男はもとの妻の「風吹けば」の歌を詠んで河内に行かなくなったが、「沖つ白浪」では、「金椀に水を入れて」胸に据えたのが沸騰したもとの妻の言動を見て、行かなく

なっている。

【「筒井筒」にはあって、「沖つ白浪」にはない描写】

◎「筒井筒」はもとの妻と男との幼い頃からの恋物語、結婚までの経緯があるが、「沖つ白浪」にはない。

○「筒井筒」には、今の妻は「河内の国」と明示されているが、「沖つ白浪」にはない。

◎「筒井筒」には、河内の国の女の歌があるが、「沖つ白浪」にはない。

【「沖つ白浪」にあって、「筒井筒」にはない描写】

○「沖つ白浪」では、今の妻が裕福な家あり、男は「ことに思はねど」通ったという設定になっており、「身の装束もいと清らにせさせけり」と具体的に書かれているが、「筒井筒」には書かれていない。

○「沖つ白浪」では、今の妻に男が行く際、「往ね」という具体的な言葉が発せられているが、「筒井筒」ではない。

◎「沖つ白浪」では、もとの女が金椀に水を入れて、それを胸に据えているのは、嫉妬の炎で熱くなっている自分の体を冷やすためである。

◎「沖つ白浪」では、もとの女の嫉妬心を見た男が、「いかなる心地し給へば、かくはし給ふぞ」という会話があり、また「かき抱きてなむ寝にける」という表現がある。

◎「沖つ白浪」では、今の妻に男が再び行ったのは、女の嫉妬心が大変なものだということが、もとの妻の様子でわかったからという設定になっており、また、行ってからも家に入るのではなく、気が引けて中の様子を見て行かなくなった、という設定になっている。

◎「沖つ白浪」では、最後に「この男は王なりけり」と、男が在原業平がモデルであることを示す一文がある。

▼ポイント▲

以上、例としてあげてみたが、細部になるとまだたくさんあるであろう。あまり細かい違いは追究しすぎず、「主な違い」を授業では押さえ、(2)の活動につなげたい。なお、◎印は主な違い、○印は、細かな違いと考えられ、参考までに付けてみた。◎印の違いについては授業で押さえたい。

(2)（手順）

1　(1)であげたものを参考に、二作品の作風の違いを考える。

・「筒井筒」は歌が多く、物語の中で歌の果たす役割が多い。

・「沖つ白浪」は、具体的な説明が多い。また、「かき抱きてなむ寝にける」等少し露骨な描写に思えたり、金椀に入れた水が女の嫉妬で燃える体の熱さのために沸騰する、等現実にはあり得ない誇張的な描写も見られる。雅さに書けるという見方もできる。

2　生徒の意見を受けて、右のように板書にまとめる等する。最後にどちらの作品が好きかと問いかけて聞いてみるのもよい。

（植田　敦子）